

# イベント案内・お知らせ

## 毎月第3土曜日開催 「ものしり化石塾 in アキシマエンス」

お手持ちの化石を調べお手伝いを、学芸員がいたします。多摩川で採れた化石をお持ちの方、昭島の自然史についてご質問がある方、ぜひご来場ください！化石に関するクイズコーナーもあります。詳しくは郷土資料室までお問い合わせください。

次回は10月16日開催予定

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、開催日等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

## 9月実施予定 ミニ展示：昭島の養蚕業

○蚕の繭から雌雄を調べる「雌雄鑑別機」等の養蚕具を中心に昭島の養蚕について展示します。

実施日：令和3年9月28日（土）～

展示資料：雌雄鑑別機、座繰、糸車、蚕種紙等

## 10月実施予定 常設展示：「祭」に想いをはせる

○市内の各所のお祭りに関わる道具を順番に紹介していきます。今回は福島神社の神輿、及び福島ばやしの祭礼道具を展示します。

開催日：令和3年10月5日（火）～ 令和3年12月25日（土）

展示資料：神輿、太鼓、笛、お面、半纏、彫刻等

## お知らせ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご協力をお願い致します

- ・37.5℃以上の発熱や体調不良の場合はご来場をご遠慮ください。施設入口での検温をお願い致します。
- ・ご入室の際はマスクを着用いただき、手・指の消毒にご協力をお願い致します。
- ・密になるのを避けるため、入場制限を行う場合がございますので、ご了承ください。
- ・展示内容やイベント内容、開室時間、開館日など、新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更となる場合がございます。予めご了承ください。最新の情報はホームページをご覧ください。お電話でもお問い合わせください。

## 郷土資料室利用案内

### 開室時間

- \*郷土資料室 火～金 10:00-20:00
- \*郷土資料展示室 火～日・祝 10:00-17:00
- 郷土資料展示室見学の際は郷土資料室スタッフにお声がけください。

### 休室日

月曜日(祝日の場合は、翌平日)、年末年始

### お問い合わせ

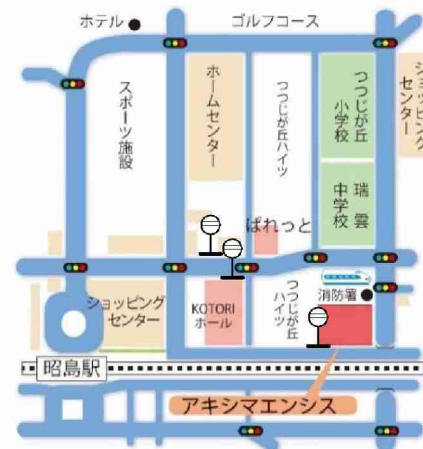
#### \*昭島市郷土資料室・郷土資料展示室

住所 〒196-0012 昭島市つつじが丘3-3-15 アキシマエンス内  
TEL 042-543-1523 (市民図書館共通)  
FAX 042-542-8002 (市民図書館共通)  
ホームページ [https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage\\_list.html](https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage_list.html)

#### \*昭島市教育委員会 生涯学習部 社会教育課 文化財係

住所 上記と同じ  
TEL 042-519-5717  
FAX 042-519-7456

郷土資料室だより「鯨-いさな-」 令和3年夏号(通巻第2号)  
編集・発行 昭島市郷土資料室  
〒196-0012  
東京都昭島市つつじが丘3-3-15 国際交流教養文化棟1階  
電話：042-543-1523 (市民図書館共通)  
FAX：042-542-8002 (市民図書館共通)  
令和3年10月発行



- \* JR青梅線昭島駅より徒歩10分
- \* 立川バス(昭22・23・24・26系統)「昭島市民会館」より徒歩5分
- \* Aバス 北ルート「アキシマエンス」下車すぐ

### 編集後記

アキシマクジラ化石発見60周年記念事業の企画展を開催以降、昭島市内外で実際に化石を採取して郷土資料室にまでお越し下さる方が増えてきました。化石と思いきもの、おもしろい化石や岩石等を拾った方はお気軽に学芸員までお声がけください。(学芸員 尾崎)



①アキシマエンス国際交流教養文化棟アキシマエンス前入口

②アキシマクジラ全身骨格化石展示の様子

アキシマクジラ化石発見60周年記念事業の企画展示が行われました。

里帰りしたアキシマクジラのほぼ全身の骨格が、一堂に会するまたとない展示でした。その他、アキシマクジラの発掘史を振り返る展示や、昭島で見つかったアケボノゾウの化石などの展示もみどころです。

### 目次

#### 特集ページ

昭島市の2番目のシンボル化石!?  
アケボノゾウの化石……………p.2

#### 郷土資料室トピック

蚕種紙って何かな?……………p.3

#### イベント案内・お知らせ

・郷土資料室利用案内……………p.4

# 昭島市の 2 番目のシンボル化石！？

## —アケボノゾウ化石—

アキシマクジラに続く…

昭島市の 2 番目のシンボル化石は、200 万年前の地層から次々と産出するゾウ化石のアケボノゾウといえます。古環境を紐解くうえで、想ゾウが尽きない化石です。



図1 多摩川河床面に露出したアケボノゾウ切歯

昭島市の多摩川河床には、今からおよそ 200 万年前に堆積した加住層かすみそうという第四紀の前期更新世の地層が露出しています。この川底から 2000 年代になって次々とゾウの化石が発見されています。この時代に生息していたゾウは、アケボノゾウ（学名：*Stegodon aurorae*）という種類です（図 1、2、3）。日本各地から化石が見つかります。生息年代は約 180 万年前から 70 万年前です。年代的に見ると加住層のアケボノゾウの産出年代はさらに古いことがわかります。多摩のステゴドンゾウの系統は中新世の終わりごろ（約 530 万年前）に中国大陸に生息していたツダンスキーゾウと同じ種類か近縁種が日本にやってきたことにはじまります。その種類を祖先としてこの系統のゾウ類（ステゴドン属）が日本国内で進化を続けました。ミエゾウやアケボノゾウの系統です。

アキシマエンシスの企画展示ブースには、昭島市の多摩川河床で発見採取されたアケボノゾウの 2 本の切歯（図 3）と第三大白歯（図 2）などの骨の化石が展示されています。ゾウの白歯は大きくて頑丈なため、白歯のみが化石として産出する傾向にあります。切歯も白歯同様に大きい個体であることから保存されやすい部位の一つです。いっぽうゾウの頭骨は壊れやすくあまり化石では見つかりません。そのため 1999 年に発見されたアケボノゾウの幼体頭骨部位の化石は極めて珍しい化石といえます。

アケボノゾウの化石発見のペースがこのまま続くと、とてもにぎやかになることでしょう。アケボノゾウが見つかった場所からは、オオカミやカズサジカ、シフゾウなどの哺乳類化石が産出しています。同地点で見られる足跡化石は、当時の生活を物語る重要な証拠となります（図 4）。

（学芸員 福嶋）



図2 アケボノゾウ第三大白歯 図3 切歯化石



図4 河床にのぞくアケボノゾウやシカの足跡化石

郷土資料室トピック  
学芸員が様々なテーマでお届けします。

# 蚕種紙って何かな？

アキシマエンシス校舎棟の郷土資料展示室には、蚕種紙(たねがみ)と呼ばれる紙(図1)が展示されています。蚕種(たね)とはカイコの卵のことで、カイコガが卵を産み付けるための紙(あるいは産み付けた紙)を蚕種紙といいます。

かつて昭島は蚕種の生産が盛んでした。郷地村の紅林徳五郎くればやしとくごろうが明治38年(1905年)に蚕業講習所を創立して養蚕業を推進し、蚕種の普及に努めた他、中神村にあった製糸会社・西川製糸も蚕種部を設けました(1)。

カイコの卵は「1蛾」という単位で販売されることが多いのですが、この1蛾とは文字通り1匹のメスの蛾が産む卵を1単位とするもので、その卵の数はおよそ500粒ほどあります。メスの蛾は産卵時に何かの枠の中に入れておくと、その枠の中に卵を産み付けてくれます(図2)。郷土資料展示室の蚕種紙は28マスに分かれているので、おそらく28マスの蛾輪(がりん)と呼ばれる円形の枠か、格子状の枠のようなものが蚕種紙とセットであって、そこにメスを1匹ずつ入れていったのだと考えられます。

校舎棟の郷土資料展示室には、蚕種紙以外にも沢山の養蚕具が展示されています。ご覧になりたい方は、国際交流教養文化棟の郷土資料室スタッフまでお気軽にお声がけください。

(学芸員 玉川)



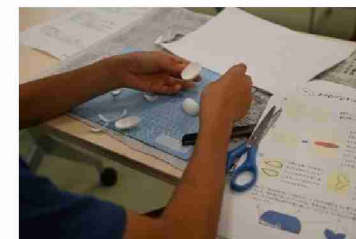
図1 校舎棟に展示されている蚕種紙と、蚕種紙に番号を印刷するための版木。蚕種紙は28マス、版木は40マスある。



図2 蛾が卵を産み付ける様子

(1) 東京都蚕糸業史編纂委員会編『東京都蚕糸業史』東京都経済農業協同組合連合会、1978年3月

## カイコワークショップを開催しました



カイコを卵から繭になるまで育て、糸取りや繭細工の作品づくりを体験しました！



9月28日(火)~郷土資料室で、養蚕の展示を行います(詳細は p.4 へ)